Pianist Analyse
ピアニスト・アナリーゼ
[90]

久元祐子さん
心の会話

久元祐子さんは、幼いころ、とても内気だったという。

「お星様や雲などを、何時間でもぼーっと見ているような子どもでした。例えば、雲は刻一刻と姿を変えていくけれど、二度と同じ形にはならない。子どもなりに、人の力が及ばない自然の神秘を感じ取っていたのかもしれません」

読書にも、親が禁止するほど没頭した。そこで思い付いたのが、深夜、布団にもぐって懐中電灯で読むという秘策。心の中に蓄積されていくさまざまな思い…。それらを表現する手段のひとつが、ピアノだった。音を通して、心の殻も徐々に取れていったという。

「100本以上もの映画を薦めてくれた友人、これまで知らなかった音色への扉を開いてくれた古楽器制作者や修復家の方たち。人との出会いによっても、世界が広がっていきましたね」

話を聞いていると、心の交流に重きを置いた彼女の生き方が見えてくる。

小学生のときは、リレーで県大会2位になったり、中学ではアナウンス部で賞を取ったり。音楽以外にもさまざまなことに心奪われ、のめり込んだ経験を持つ久元さん。彼女の好奇心は、留まるところを知らない。

日下彼女は、1843年製のプレイエルと1868年製のエラールのピアノにはまっている。

「ショパンを弾いているとき、例えば現代の楽器では思い通りに出せなかった憂いが、当時のプレイエルだと、楽器自体から自ずと滲み出てくる。名器がたくさんのことを教えてくれます」

新たな出会いがもたらすワクワク感…。楽器との対話は、作曲家の心との会話でもあると、彼女は語る。

「生まれ変わったら冒険家になって、今は演奏会があるからできない危険なことにも、どんどん挑戦したいです」

穏やかな口調のまま、こんな勇ましい言葉も飛び出した。

Yuko Hisamoto

東京芸術大学大学院ピアノ科修了
リサイタル、オーケストラとの協演
NHK-FMリサイタルなどの放送番組にも出演
『モーツァルトのクラヴィーア音楽探訪』
（音楽之友社）など、著書も多い
園田高弘賞、毎日21世紀賞など受賞
国立音楽大学講師
セレモアコンサートホール武蔵野顧問
日本ラトヴィア音楽協会理事
http://www.yuko-hisamoto.jp/

■久元 祐子　ピアノ・リサイタル
7月21日（土）15時 茅野市民館
問合せ：☎0266・82・8222
7月31日（火）19時 東京文化会館
問合せ：☎03・3943・6677
■CD『青春のモーツァルト』
8月7日リリース

写真＝岡本 央　文＝本誌・岡地まゆみ
取材協力―セレモアコンサートホール武蔵野